

大学の世界展開力強化事業（平成 30 年度採択）中間評価結果

大 学 名	上智大学、お茶の水女子大学、静岡県立大学
整理番号	AA08
事 業 名	人間の安全保障と多文化共生に係る課題発見型国際協働オンライン学習プログラムの開発

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
コメント	<p>本プログラムは人間の安全保障と多文化共生の観点から、国際社会における課題を発見し、その解決に貢献できる人材育成を目的として実施している。</p> <p>人材育成目的と取組内容がバランスよく連動しており、3大学の個々の特徴を活かしたプログラム連携体制も機能している。静岡県立大学が持つ地域企業とのネットワークとリソースを活用した静岡スタディツアーは、参加学生の評価も高く評価できる。また、COIL 型教育の導入に必要とされる設備の充実により、COIL 型科目数や交流学生数も順調な推移を示しており、COIL 型科目の履修が留学準備及びフォローアップに接続されていることも評価できる。単位相互認定については成績証明書、シラバス及び基準時間を精査した上で管理されており、プログラム運営協議会が俯瞰的視点でプログラム全体の進捗状況や方向性を把握し、教員・TA のキャパシティビルディングを丁寧に行いつつ事業を推進している。各大学がそれぞれの強みを活かしたプログラム提供をしていることから留学生の満足度も高く、派遣学生に対しては渡航前危機管理ガイダンス等を通してきめ細やかな指導を実施している。COIL 型教育を活用した途上国支援と SDGs への取組として発展させるよう、一層の展開が期待される。</p> <p>一方で、海外相手大学に COIL 型授業がどのような位置付けで導入され、本プログラムの目的が十分に理解された上で実施されているのかを明確にして、海外相手大学と真に連携した共同事業として双方向的に本プログラムを進めることが望まれる。また、受入学生については目標を大きく上回っているにも関わらず、COIL 型教育を活用した学生の実績は目標の半数以下となっている。事業計画に沿って COIL 型教育を活用した受入学生の増加に向けた対応が必要である。</p> <p>最後に、今後も本プログラム終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と、将来の我が国の更なる発展に向け積極的なプログラム展開に取り組まれることを期待する。</p>